

# 住吉に住んだ文化人たち—豊かな文化力の継承—

住吉は、大阪都心との交通の便に恵まれ、大正・昭和時代から、小説、美術、教育、芸能など多くの文化人が住んでいました。また、これらの文化人を訪ねて、多くの人たちが住吉にやってきました。

住吉をこよなく愛し、多くの功績を残した文化人たちの作品とともに、その多彩な交友関係や日々の暮らしをたどります。

住吉人のもつ進取の気風やエネルギッシュな創作力をご覧ください。この町の豊かな文化力を次代に受け継いでいきたいと思ひます。

「住吉に住んだ文化人たち」にゆかりのある方へのインタビューを中心に、写真や作品、交友関係を物語る資料、数々の懐かしい映像でつづります。



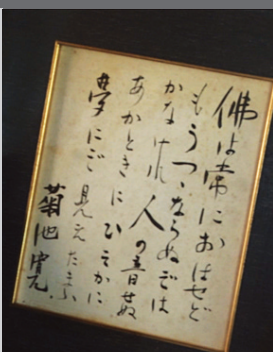
## 石濱恒夫(小説家・作詞家・冒険家)

『大阪詩情』『流転』などの作品、『こいさんのラブコール』(歌・フランク永井)の作詞、また川端康成のノーベル賞授賞式に付添い人として同行する。娘・紅子と大西洋ヨット横断を果たした。妻・石濱敏子さん、娘・石濱紅子さんが父と石濱家ストーリーを語ります。



## 藤澤恒夫(小説家)

武田麟太郎、長沖一らと同人誌『辻馬車』を発売。新感覚派からプロレタリア文学に転向、大衆・流行作家として数多くの小説を残す。南海ホークスの大ファン、将棋にまつわる著書も多かった。娘・藤澤章子さんが父の多様な文化人との交流について語ります。



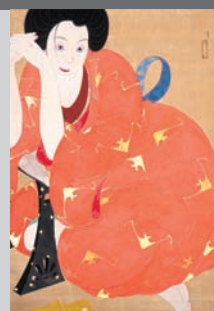
## 庄野貞一(教育者)、庄野英二(児童文学作家)、庄野潤三(芥川賞作家)、阪田寛夫(芥川賞作家)

父・貞一が自由な教育を説き、帝塚山学院初代学院長となった。兄・英二が『星の牧場』など、児童文学の名作を書き、優れた画家でもあった。『プールサイド小景』で芥川賞作家となった兄・潤三、同じく帝塚山学院出身で芥川賞作家であり、『サッチャン』の作詞家でもある阪田寛夫について、貞一の末息子である庄野至さんが語ります。



## 中村貞以(日本画家)

長谷川貞信、北野恒富に師事、39歳で帝塚山に転居。多くの弟子を育て、住吉や大阪の町を愛し、美人画の秀作を数多く残す。南海電鉄社員であった頃、貞以と出会い、弟子入りした日本画家・山内清治さんが往時の懐かしい話をします。



## 六代目笑福亭松鶴(落語家)

桂春団治、桂米朝、桂小文枝らとともに、戦後の上方落語の継承・復興に功績が大きい。豪快洒脱な芸風、中でも酔っ払いの落語は天下一品。帝塚山に住み、多くの落語家を育てる。その一人、笑福亭松喬さんが厳しくも優しくあった松鶴師匠の思い出を落語風に語ります。



先人の精神性を引継ぎ、現在活躍している、住吉にゆかりのある文化人を紹介します。町田康氏(作家)、岡田武史氏(サッカー元日本代表監督)、ラサール石井氏(タレント)、桂雀々氏(落語家)、いしいしんじ氏(作家)が登場します。

## 住吉文化事業実行委員会とは…

住吉の歴史・文化を発掘し、「わがまち」の魅力を区内外に発信したい。そんな意思をもって自主的に活動する、区民が中心となった団体です。